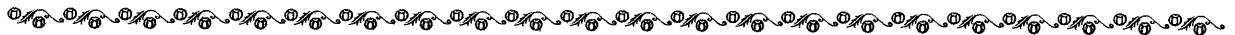


2008.6.7



巨匠指揮者達の未発表音源を聴く



プログラム

今日は、3人の巨匠指揮者の正規には未発表、未発売の貴重な音源を聴いていただきます。フランスの巨匠ミュンシュは1962年までボストン響の常任指揮者を務めました。1960年の来日公演は、このコンビでは最初で最後となりました。旧ソヴィエトの巨星ムラヴィンスキーの演奏は、“ブラハの春” “ウィーン芸術週間” 2つの音楽祭に出演した折の録音です。ルーマニアの生んだ大指揮者チェリビダッケは1996年に亡くなりましたが、今回お聴き頂くのはその3年前の1993年に手兵ミュンヘン・フィルを率いて行った来日公演の演奏です。それぞれ芸風の違う3人の指揮者の演奏をお楽しみいただきたいと思います。

クロード・ドビュッシー (1862~1918) :
交響詩 “海” ~

1. 海の夜明けから正午まで 3. 風と海との対話

シャルル・ミュンシュ指揮ボストン交響楽団
(1960. 5. 20 神奈川県立音楽堂Live)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) :
交響曲第5番ハ長調 *op. 67* ~ 第1楽章、第2楽章~ 第4楽章抜粋

シャルル・ミュンシュ指揮ボストン交響楽団
(1960. 5. 22 日比谷公会堂Live)

ミハイル・イヴァノヴィチ・クリンカ (1804~1857) :
歌劇 “ルスランとリュドミラ” 序曲

セルゲイ・フロコフィエフ (1891~1953) :
交響曲第6番変ホ短調 *op. 111* ~ 第4楽章から

エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団
(1967. 5. 26 ブラハ、スメタナホールLive)

*** 休憩 ***

セルゲイ・フロコフィエフ (1891~1953) :
舞踊音楽 “ロミオとジュリエット” 第2組曲~

1. モンタキュー家とキャピュレット家 6. ジュリエットの墓の前のロミオ

エフゲニー・ムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団
(1982. 6. 3 ウィーン・ムジークフェラインザールLive)

ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893) :
交響曲第6番ハ短調 *op. 74* “悲愴” ~ 第3楽章後半から第4楽章

セルジュ・チェリビダッケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1993. 4. 28 東京芸術劇場Live)

アントン・ブルックナー (1824~1896) :

交響曲第3番ニ短調 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第4楽章から

セルジュ・チェリビダッケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1993. 4. 22 サントリーホールLive)